

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです

あえて逆境に身を置ける人 上司を頼りにするな、会社をアテにするな

「人間力」とは、どのようなものでしょうか。人が持つ総合的な力が人間力であるというわけなのですが、私が考えるところの「人間力」とは、本来人間としてあるべき力であり、もっと高尚でレベルの高い何かであるように思うのです。たとえば、尊敬できる上司を見て、「自分自身もこうありたい」と、どこか憧れの気持ちで相手を見るようなとき、そこに映っているものが「人間力」なのではないでしょうか。人間力とは、まさに、リーダーシップに通じるものでもあるようです。「経験」「能力」「性格」「考え方」といったものを掛け合わせて出来るもののような気がします。そう考えると、人間力とは、直接磨けるものではないわけです。毎日、会社という「道場」で問題解決に取り組み、苦しんでいるうちに、その人の内部に自ずと育っていくものではないでしょうか。ですから人間力とは、必然的にその人の仕事の能力と比例するものであるはずです。

では、人が成長し能力を伸ばすのはどのようなときなのでしょう？2005年6月12日、アップル社創立者のステーブ・ジョブズ氏がスタンフォード大学の卒業式で行った祝賀スピーチは大変有名です。ジョブズは会社創立後10年かけて従業員4000人以上、売上高20億ドルの企業に成長させますが、マッキントッシュを発表した1年後、諸々の事情で社を追いついてしまいました。彼は打ちのめされ、進むべき道を失い、一時はシリコンバレーから逃げ出すことも考えたそうです。しかし、自分がまだ仕事が好きであることに気づき、もう一度やり直すことに決めました。その後、ネクスト、ピクサーといった会社を立ち上げて大きな成功を収め、人生をともにする女性にも出会います。後にネクストはアップル社に買収され、ジョブズは古巣に戻ることになりました。ネクストで培われた技術は、アップル社を再起させる中心的な役割を果たしたとジョブズは語っています。そして、この演説の中で、彼はこういいました。「そのときはわかりませんでした。後になって、アップル社をクビになったことは人生最良の出来事であったと気づきました」これは、逆境を乗り越え、自分を成長させた人だからこそ出てくる言葉ではないかと思うのです。

人間は、逆境にあるときに育つものです。だから一流の人は、自分を逆境に置こうとするし、その結果伸びていくのです。逆境を自分の力で乗り越えようとするとき、人は大きく成長します。一方、私たちの周りを見渡してみると、うまくいかないことを「周りのせい」にする人が多いのではないのでしょうか。そんな風に、問題を「周りのせい」ととらえてしまうと、自分自身の問題とはなり得ず、自分が乗り越える対象ではなくなります。頼りない上司をどうにかしようとするのではなく、上司の頼りなさを前提に、その条件の中で自分の仕事に取り組む姿勢を持ってほしいのです。

千葉県柏市にある名戸ヶ谷病院は、「救急患者の受け入れを拒否しない」という姿勢を、開院以来25年間、守り続けています。この病院には法の規定を超える医師の数がそろえられ、医師は必ず各科に一人、病院から車で五分圏内に住むことが決められているそうです。当直医は二人ですが、手が足りない場合はいつでも医師の呼び出しが可能だといいます。名戸ヶ谷病院を取り巻く環境は、救急患者の受け入れを渋りがちな他の病院とまったく同じです。しかし、「患者を拒否しないためにはどうすればいいか？」という問題に真正面から取り組んだからこそ、それを実現できているのです。仕事も同じではないでしょうか。上司が頼りなくても。会社がアテにならなくても、自分にできることは必ずあります。そうして「何とかしよう」と思い、行動を起こしていく人が、「成長できる人」であり、ひいては一流の「人間力」を持つ人になれるのです。

人間力は、何を掛け算して出来上がりますか？4つすべて書いてください

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )